

苫小牧自然環境保全審議会 第26期第2回（R8.7.31開催） 議事概要

- (1) 開会
- (2) 出席者自己紹介
- (3) 会長挨拶
- (4) 協議事項 生物多様性地域戦略に基づく進捗報告について
- (5) 報告事項 樽前山直轄火山砂防事業について
- (6) その他
- (7) 閉会

【委員・事務局からの主な質疑意見】

次第4 協議事項 生物多様性地域戦略に基づく進捗報告についての質問

●中村会長（審議会委員）

動画は非常に分かりやすかったが、これを一般市民の方がどのように視聴できるようにするのか。公開方法について教えてほしい。

●高坂課長（事務局回答）

今後は市のホームページにアップするほか、出前講座の場などで「生物多様性とは何か」を伝える導入のきっかけとして活用し、周知を図っていきたいと考えている。

●脇田委員（審議会委員）

動画は分かりやすくて良い。一つ気になったのは、戦略5の「生物情報の共有」について。希少種や絶滅危惧種の情報は、詳細すぎる場所を公開すると乱獲などのリスクを伴う。情報をぼかして公開するなど、開示の工夫が必要になるかと思うが、その点はいかがだろうか。

●高坂課長（事務局回答）

ご指摘の通り、ハスカップやヤチヤナギ、希少な鳥類などの情報は非常にデリケートと考える。全ての情報を詳細に公開するのではなく、博物館の学芸員や専門家の先生方のご意見を伺いながら、どこまで公表するか、どのようなマップにするかを慎重に検討していく。

●脇田委員（審議会委員）

例えば東京都多摩市などでは、生物情報をうまく落とし込んで公表している例もあるので、参考にいただければと思う。また、先日北海道のレッドリストが改訂され、ハスカップも掲載されたと記憶している。こうしたタイミングを捉えて、苫小牧版のリスト作成なども進めていければと思っている。

次第 5 報告事項 樽前山直轄火山砂防事業についての質問

●中村会長（審議会委員）

この事業では 1739 年の大噴火と同規模のものを想定しているとのことだが、なぜその規模を想定しているのか、もし分かれば教えてほしい。

●高坂課長（事務局回答）

国の事業のため詳細な選定理由は伺っていないが、樽前山には小・中・大規模の噴火シナリオがあり、その中で最大規模の対策を講じておくことで、泥流被害を最小限に抑えるという考え方に基づいているものと推察される。

●脇田委員（審議会委員）

樽前山の噴火周期や、今後の大規模噴火の可能性についてはどのように想定されているか。

●高坂課長（事務局回答）

火山学の専門家によれば、当面の間、大規模噴火の可能性は非常に低いと言われている。ただし、2,000 年以降も溶岩ドーム周辺では高温状態が続いており、御嶽山のような水蒸気爆発などの小・中規模噴火はいつ起きてもおかしくない状態である。そのため、現在は集団登山自粛などの措置が取られている。

●高坂課長（事務局補足説明）

この砂防事業は国の事業であるが、苫小牧市の保全地区の上流で行われるものである。保全地区である「樽前ガロー」への影響が最小限となるよう、市としても要望を伝えていく。進展があればまた報告させていただく。

次第 6 その他について

●高坂課長（事務局）

「計画体系の見直しに係る検討状況」についてご説明します。国の第 6 次環境基本計画では、気候変動や生物多様性の損失などに対し、総合的なアプローチが求められている。現在、本市には「環境基本計画」「一般廃棄物処理基本計画」「生物多様性地域戦略」などが個別に存在している「が、今後は「環境基本計画」を上位計画とし、他を個別計画として位置づける体系整理を行いたいと考えている。これに伴い、現在は 3 つに分かれている審議会（環境審議会、廃棄物等推進審議会、自然環境保全審議会）を「環境審議会」に統合し、総合的な議論ができる場にすることを検討している。専門的な事項については部会を設置して対応する想定である。今後、詳細が決まり次第、改めて報告する。